

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 033

(2020/21年度 USDA 米国農務省 4月9日発表)

【ハイライト】① シカゴ穀物相場は、下記にある様に BRA 等の作柄好転もあり今月若干弱含みになったが、全体的には2012年以來の堅調な水準を維持したまま推移している。② 先月、世界の穀物在庫は数量約8億ト/在庫率29.1%とFAOの安全在庫基準(コーン15%小麦25%等)を大きく上回っており供給不安は少ないと述べたが、ここに来て幾分トーンに変化の兆しがある。それは、下表から読める様に穀物/大豆とも消費量が生産量を僅かに上回る傾向で、**在庫数量/在庫率とも減少に転じている**ことである。③ 具体的には、在庫率で見ると穀物=28.7%(前年比1.7%減)、コーン=24.6%(同2.2%減)、小麦37.8%(同2.3%減)、大豆23.5%(同3.5%減)となっている。要するに、需給の構造的/潜在的要因と併せ、ここ数年の中国等の旺盛な穀物輸入拡大の結果が反映されていると言える。④ ただ問題はそれだけではなく、先月触れた**中国の在庫実態**をどう読み込むか…。中国の穀物在庫数量はコメ/大豆含め4.9億ト、世界穀物在庫8.8億トの何と56%!について疑問を呈したが、仮に中国在庫の実態が半分程度とすれば**世界在庫は6.3億ト/在庫率は一気に20%程度と2012年当時の21%レベルまで落ち込む**ことになる。⑤ また、中国の生産量はどうか? USDA見通しではコーン260/小麦134/コメ148/大豆20/その他含め565百万トであるが、中国特集(5)(6)で触れたように**土壤汚染/水不足等の要因からその数量と品質がどの程度確保されるかも**疑問が残る。⑥ 現在の中国の大豆/コーン等の“爆買い”状況は、食肉需要の増大と併せてこれらの穀物在庫/生産に絡む不安定要因が起因している可能性がある。その意味で中国は現在の135百万ト穀物輸入見通し(全世界貿易量の21%)から更に拡大し、**USや南米BRA等からの中国向け船舶需要が今後とも増大しフレートも更に高騰する**可能性がある。⑦ このような状況を踏まえると、シカゴ定期は現在の高値水準がピークではなく、2012年の米国での異常早魃による秋口以降の価格暴騰レベル(コーン\$8・小麦\$9・大豆\$17/bu)も想定しておく必要があるのではないだろうか。また足元では、米国の3/31「農家作付意向調査」によれば、コーン約9,100万acre/大豆8,760万acreと当初見通しより大幅に減少し、価格上昇の気配がある。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量: 2,727百万ト(前年比2.0%増、前月比±0)
- ② 消費量: 2,749百万ト(前年比2.9%増、前月比0.4%増)
- ③ 貿易量: 476百万ト(前年比7.4%増、前月比0.4%増)

2、どうもろこし

- ① 生産量: 1,137百万ト(前年比1.8%増、前月比0.1%増)
- ② 消費量: 1,156百万ト(前年比1.9%増、前月比0.4%増)
- ③ 貿易量: 187百万ト(前年比9.1%増、前月比0.4%増)
- ④ 概況: 最大産地米国は前年比+14百万ト増の360百万トと変更ないが、輸出は2百万ト増の68百万トと好調。BRAも前年比+10百万トの109百万トと史上最高見通し。UKRは2950万トと▲18%大幅減。貿易量は**中国の輸入拡大の結果187百万ト**と大幅増。期末在庫284百万ト/在庫率24.6%。
- ⑤ 価格は\$5.60/Bu(前年\$3.31/Bu、前月\$5.62/Bu)と前月比¢2下落。

3、小麦

- ① 生産量: 776百万ト(前年比1.7%増、前月比±0)
- ② 消費量: 781百万ト(前年比4.5%増、前月比0.7%増)
- ③ 貿易量: 199百万ト(前年比3.9%増、前月比0.6%増)
- ④ 概況: 世界生産量はAUSが前月比+3百万トの33百万トに拡大。CANも好調。全体数量も776百万トと史上最高見通し。消費量も**中国の飼料増/INDの食糧増**と全体で史上最高見通し。貿易量は199百万トと前年比7百万ト増加し堅調。その結果、期末在庫は296百万ト/在庫率37.8%と減少。
- ⑤ 価格は\$6.11/Bu(前年\$5.49/Bu、前月\$6.54/Bu)と前月比¢43下落。

4、大豆

- ① 生産量: 363百万ト(前年比7.1%増、前月比0.4%増)
- ② 消費量: 370百万ト(前年比3.5%増、前月比0.5%減)
- ③ 貿易量: 171百万ト(前年比3.6%増、前月比0.7%増)
- ④ 概況: 米国生産量は113百万トと前年比16百万トの大幅増(97⇒113)。BRAは生育好調で前月比2百万ト前年比11百万ト(125⇒136)増加。世界全体では前年339⇒363百万トと前年比7.1%の大幅増産見通し。**中国輸入見通しは1億トの大台**変わらず。世界貿易量も171百万トと前年比大幅増。期末在庫87百万ト/在庫率23.5%。
- ⑤ 価格は\$14.20/Bu(前年\$8.54/Bu、前月\$14.34/Bu)前月比¢14下落。以上

世界の穀物・大豆等の需給

2021年4月9日
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,627	3,451	430	2,641	810		
	2019/20	2,673	3,483	443	2,672	812		
	2020/21	3月	2,726	3,536	474	2,739	797	
		4月	2,727	3,538	476	2,749	789	
小麦	2018/19	731	1,018	174	735	283		
	2019/20	764	1,047	192	747	300		
	2020/21	3月	777	1,077	198	776	301	
		4月	776	1,077	199	781	296	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,399	1,772	213	1,421	350		
	2019/20	1,412	1,762	209	1,428	334		
	2020/21	3月	1,445	1,777	230	1,459	318	
		4月	1,446	1,780	231	1,464	316	
大豆	2018/19	361	462	149	347	114		
	2019/20	339	453	165	357	96		
	2020/21	3月	362	458	170	371	87	
		4月	363	460	171	370	90	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	3月	303.13	1,136.31	179.94	1,151.77	186.55	287.67
	4月	302.99	1,137.05	179.98	1,156.19	187.26	283.85
アメリカ	3月	48.76	360.25	0.64	305.45	66.04	38.15
	4月	48.76	360.25	0.64	307.35	67.95	34.34
アルゼンチン	3月	3.67	47.50	0.01	15.00	34.00	2.18
	4月	3.62	47.00	0.01	14.50	34.00	2.12
ブラジル	3月	4.79	109.00	1.50	70.00	39.00	6.29
	4月	5.23	109.00	1.50	70.50	39.00	6.23
EU	3月	7.18	63.70	15.50	77.00	2.20	7.18
	4月	7.22	64.00	15.50	77.30	2.20	7.22
日本	3月	1.39	0.00	15.60	15.65	0.00	1.34
	4月	1.39	0.00	15.60	15.60	0.00	1.39
中国	3月	200.53	260.67	24.00	289.00	0.02	196.18
	4月	200.53	260.67	24.00	289.00	0.02	196.18
ウクライナ、 ロシア	3月	2.31	43.37	0.06	17.00	27.10	1.63
	4月	2.31	43.37	0.06	18.00	26.10	1.63

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	3月	96.04	361.82	166.90	371.31	169.72	83.74
	4月	96.38	363.19	167.76	369.55	170.91	86.87
アメリカ	3月	14.28	112.55	0.95	63.29	61.24	3.25
	4月	14.28	112.55	0.95	62.47	62.05	3.25
アルゼンチン	3月	26.70	47.50	4.70	47.40	7.00	24.50
	4月	26.70	47.50	4.70	47.70	6.85	24.35
ブラジル	3月	20.75	134.00	0.40	49.15	85.00	21.00
	4月	20.74	136.00	0.55	49.40	86.00	21.89
中国	3月	26.80	19.60	100.00	116.70	0.10	29.60
	4月	26.80	19.60	100.00	114.70	0.10	31.60
EU	3月	1.69	2.70	15.15	18.51	0.20	0.83
	4月	1.70	2.58	15.35	18.66	0.20	0.76

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	3月	300.29	776.78	191.59	775.89	197.69	301.19
	4月	300.04	776.49	191.84	781.01	198.91	295.52
アメリカ	3月	27.99	49.69	3.27	31.38	26.81	22.76
	4月	27.99	49.69	2.99	30.69	26.81	23.18
アルゼンチン	3月	1.72	17.20	0.01	6.05	11.50	1.38
	4月	1.72	17.63	0.01	6.25	11.50	1.61
オーストラリア	3月	2.90	33.00	0.20	8.50	22.00	5.60
	4月	2.90	33.00	0.20	8.50	22.00	5.60
カナダ	3月	5.50	35.18	0.55	9.90	27.00	4.33
	4月	5.50	35.18	0.55	9.90	27.00	4.33
EU	3月	14.30	135.80	6.00	118.50	27.00	10.60
	4月	14.13	135.60	6.00	117.50	27.50	10.73
中国	3月	151.68	134.25	10.50	145.00	1.00	150.43
	4月	151.68	134.25	10.50	150.00	1.00	145.43
インド	3月	24.70	107.86	0.03	103.09	2.00	27.50
	4月	24.70	107.86	0.03	103.09	2.20	27.30
ロシア	3月	7.23	85.35	0.50	41.50	39.00	12.58
	4月	7.23	85.35	0.50	41.50	39.50	12.08
ウクライナ	3月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12
	4月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジルの現状と課題(9)

前回まではBRAの穀物生産/輸出拡大等に関して述べたが、今回はこの間BRAで同時にすすむ食肉生産/加工/輸出の拡大の現状について整理したい。BRAは2000年以降、**今や世界食肉市場において主要な位置**をしめ、特に、鶏肉/豚肉は大手食肉メーカーがインテグレーターとなり国内の生産/流通と海外輸出を独占する構図を構築している。

- この背景にあるのは、一つは今まで述べた**世界に類例のない大豆/コーンの急激な生産拡大**である。因みに00/11⇒20/21年度の20年間推移は、大豆40⇒133百万ト、コーン34⇒109百万トと約3倍増の合計約1億7千万ト増と世界の穀物生産を押し上げ、同時に国内で安価な配合飼料原料手当てを可能とした。二つ目は、生産技術革新と近代的加工施設による**食肉価格の低廉化**により国内消費が拡大し、且つ輸出競争力が高まったことである。この二つの相乗効果によってBRAは穀物だけでなく**世界有数の食肉生産/輸出大国に成長した**。
- 具体的に、BRAにおける2000-20年までのこの20年間の食肉生産/輸出量の推移は別表の通りである。BRAの牛肉/豚肉/鶏肉3畜種合計の生産量は、**この間1,760⇒2,870万ト(163%)**約1,100万ト増と急拡大し、中国/US/EUに次ぐ世界第4位の食肉生産国にのし上がってきた。特に鶏肉は**910⇒1,410万トと単独で何と500万ト増大**し、中国/EUと肩を並べるまでに成長した。これは世界的な健康志向で鶏肉需要が拡大しているという背景はあるが、一方では牛肉/豚肉に比べれば肥育期間が約50日と短く極めて投資効率が高く、加工も容易、施設システムも近代化され**インテグレーターにとっては格好の投資分野**になっている。
- 世界全体の食肉生産量は別表で見ると通りであるが、この20年間で世界的な食肉消費拡大の流れの中で、**約1億9千万ト⇒2億7千万ト(140%)**と約8千万ト増加した。この拡大を牽引しているのはやはり**鶏肉生産であり5,900⇒1億2百万トとその伸び率は170%超、生産量は4千万ト増加**、豚肉生産量とほぼ肩を並べるレベルとなった。この間の豚肉生産では、中国におけるASF(アフリカ豚熱)蔓延の影響で2019年~20年まで豚肉生産が激減。2015-2020年比で見ると約3割減の1,300万ト急減、まだもとのレベルには戻っていない。この隙間を埋めるように鶏肉生産は世界的に拡大したが、それを主導したのはBRAであり1980年(125万ト)からの長期で見れば生産量は10倍を超えている。
- 世界の食肉消費量は、ほぼ生産量拡大に連動し着実に増加し**20年消費量は2億6千万トと00年比140%拡大**。特に畜種別には鶏肉が約1億トに迫り同比170%増と全体を押し上げている。その中でBRAは国内消費量が21百万トと162%増、特に鶏肉は00年比**ほぼ倍増の1千万ト**を超えるレベルまでになったのは特徴的である。食肉生産/消費とも数量/比率とも大幅に伸ばしているのは何故鶏肉なのか？これは先に述べた低脂肪低コレステロールの健康志向ともう一つは低コストである。1キロ食肉生産に要する配合飼料は凡そ牛肉10kg/豚肉4kg/鶏肉2kgとされその差は大きく、**鶏肉は安くヘルシーであり消費が伸びる条件を備えている**。また併せて、鶏肉は**宗教的な制約が薄い**ことも消費拡大に繋がっている。
- 以上のこの20年間の食肉生産/消費動向に比較し、国際間の輸出入はどうか？00⇒20年の3畜種合計輸出数量の推移は1,530⇒3,400万トと約2.2倍増となった。国別に見れば別表の通り各畜種とも**中国の輸入増加ぶり**が際立ち、その輸入量合計は20年約830万トに上り**世界の約1/4**を占めたが、逆に輸出で存在感を大きく高めたのがBRAである。**BRAの食肉輸出量は**別表の通り20年の**3畜種合計で約780万ト**と00年比で**約3倍増**、数量では**500万ト超急拡大**しUSに次ぐ一大食肉輸出国となった。やはりそれを牽引したのが鶏肉であり、食肉輸出の約半分をしめている。BRAの食肉輸出額(2016年)は鶏肉を中心に約\$133億と農産物輸出の15.7%を占め大豆(\$254億・30%)に次ぐ地位を占めその存在感は高まっている。食肉輸入で**日本**に一言触れると、20年輸入量は**約330万トと中国に次ぐ輸入大国**である。鶏肉はそのうち106万トだがBRAからの輸入は約半分を占め、タイからのシフトが進んでいる。
- BRAの食肉生産は、主にパラナ等の南部諸州とマトグロッソ等の中西部諸州に集中し、ほぼ主要穀物生産地と連動している。生産方式は鶏肉/豚肉の多くは食肉メーカーによる委託生産、牛肉はファゼンデイロ(牧場主)と呼ばれる独立生産者が主体である。特に鶏肉生産は、食肉メーカーが生産者にヒナ/飼料/ワクチン等の生産資材を提供し飼育を委託、肥育重量/日数/効率等の成績に応じ生産者に支払う方式で最もインテグレ化が進んでいる。BRAでは現在、BRF社等の食肉メーカーとコチア等の産業組合の**インテグレ率が約90%と極めて高く**、同時に**加工/流通でも寡占化が進みBRF社43.3%、JBS社34.4%**と両社で77.7%と圧倒的なシェアを誇り、大手スーパーチェーンに直接販売する構図が主体である。これは鶏肉輸出においても同様であり、寡占化と低コスト化により競争力を増した食肉メーカーはBRA食肉輸出の大半を担い、今や**※JBS社は世界最大の食肉メーカーに成長**している。今後BRAの農畜産物輸出は、大豆/コーン等の穀物も拡大の余地があるが、より**付加価値の高い畜産物にシフトしていく可能性が高まる**ものと想定される。(※設立1953年/売上高\$500億/約5兆5千億円、牛肉55%/鶏肉25%、2000年以降ARG/US/AUS等の大手食肉メーカー等を次々に買収。食肉多国籍企業。一方で賄賂事件/森林破壊/カルテル等数々の問題が報道されている) 続く

別表【ブラジルと世界の食肉生産/消費/輸出入の推移】

※(出所) USDA Livestock and Poultry : World Market and trade

単位:千トン

【広大な大豆畑に位置するJBSディアマンティノ工場】

	国名	牛肉				豚肉				鶏肉				三畜種合計 (2020)	2000年比
		2000	2010	2015	2020	2000	2010	2015	2020	2000	2010	2015	2020		
生産	BRA	6,520	9,145	9,425	10,400	1,970	3,170	3,451	4,250	9,117	11,420	13,080	14,120	28,770	163.4%
	中国	5,328	5,550	6,750	6,685	40,314	50,000	56,375	43,500	11,960	12,550	13,025	14,900	65,085	113.0%
	EU	7,462	7,870	7,540	7,730	17,585	22,250	23,000	24,040	8,394	8,920	10,600	12,120	43,890	131.2%
	US	12,298	11,828	10,861	12,397	8,596	10,052	11,158	12,963	16,362	16,348	17,966	20,380	45,740	122.8%
	世界計	49,775	56,763	58,443	61,162	81,272	101,507	111,458	103,755	59,638	74,406	87,944	101,811	266,728	139.9%
消費	BRA	6,102	7,510	7,870	7,845	1,811	2,545	2,887	3,205	5,148	8,071	9,344	10,205	21,255	162.7%
	中国	5,290	5,528	7,350	9,465	40,418	50,050	57,200	47,995	12,497	12,496	12,880	15,405	72,865	125.2%
	EU	6,102	8,200	7,610	7,695	16,168	20,580	20,662	19,960	7,669	8,760	10,160	11,350	39,005	130.3%
	US	12,481	11,932	11,400	12,427	8,449	8,428	9,340	10,106	13,546	13,426	14,996	17,035	39,568	114.8%
	世界計	49,012	56,437	56,466	59,720	80,979	101,126	110,944	102,998	58,592	73,322	86,276	99,661	262,379	139.1%
輸出入	BRA	480	1,810	1,775	2,670	163	640	580	1,230	947	3,450	3,880	3,920	7,820	491.8%
	中国	-	-	-	△ 2,800	-	-	△ 850	△ 4,620	504	-	△ 260	△ 925	△ 8,345	-
	EU	643	-	310	360	1,470	1,550	2,330	3,255	1,032	840	1,190	1,425	5,040	160.3%
	US	1,141	1,002	1,100	1,402	592	2,121	2,370	7,850	2,825	3,016	3,221	3,387	12,639	277.3%
	世界計	5,759	7,408	9,926	10,762	3,457	6,058	7,259	11,105	6,107	8,954	10,688	12,118	33,985	221.8%

注) 輸出入の欄は、中国は△で輸入量のみ、他国は輸出量のみ表示している。

